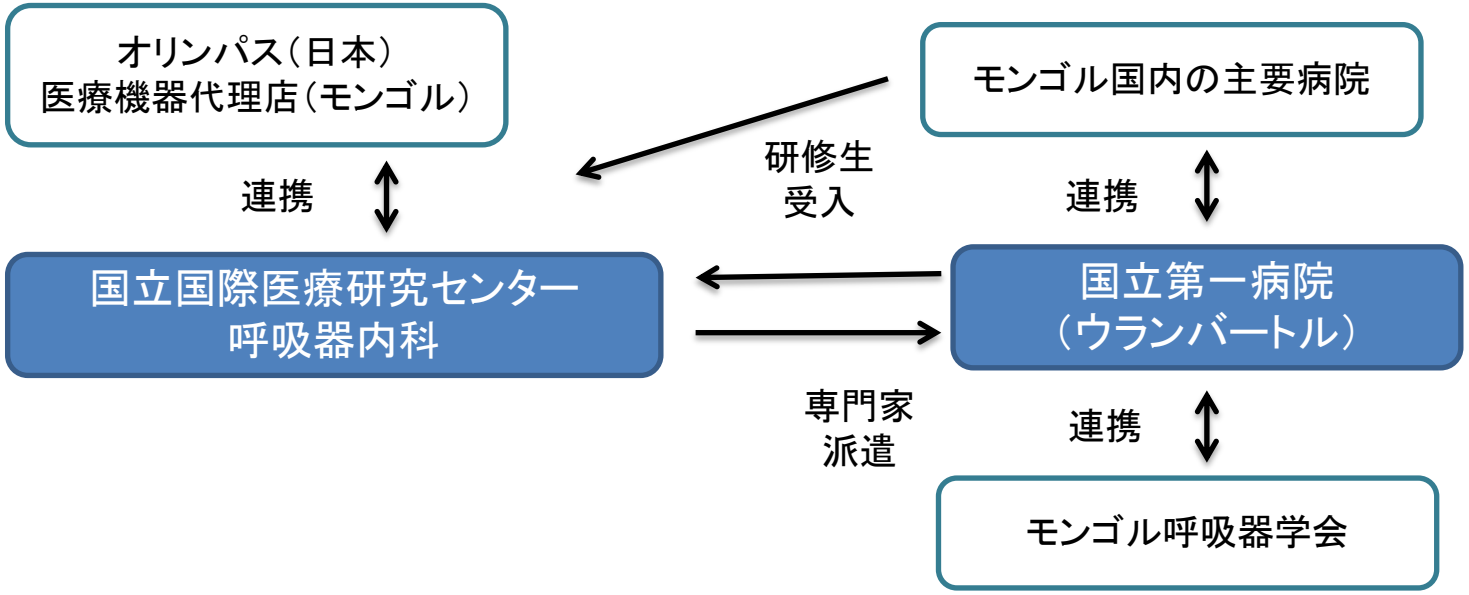
事業概要のまとめ（C）

作成日：令和6年4月4日

モンゴルにおけるEBUSを中心とした呼吸器内視鏡の普及および技術向上

1.現地の状況やニーズ：モンゴルでは、主に肺癌や結核の診断に用いられている呼吸器内視鏡の普及が遅れている。なかでも肺癌の診断に不可欠なツールである超音波気管支鏡（EBUS）が1つの病院でしか実施できず、保険収載されていない。
2.事業目的：呼吸器内視鏡、なかでも超音波気管支鏡（EBUS）を用いた診断技術を呼吸器内科医が習得し、EBUSが保険収載され、国内の主要な病院で実施できるようになる。
3.事業の概要：モンゴルの主要病院の医師に対して、NCGMでの3週間の呼吸器内視鏡に関する研修を実施する。またNCGM呼吸器内科医師を国立第一病院に派遣し、安定した手技実施を補助する。
4.期待される成果とその後の波及効果：世界標準の気管支鏡手技が普及することでモンゴルの呼吸器疾患を持つ患者に健康利益をおよぼす。医療保険への組み入れなどを経て数年以内にモンゴル国内の主要病院にEBUSが普及し、また事業の対象となった病院が他の病院への教育的な指導が可能な体制を構築する。



＜研修スケジュール予定＞

5月-2月　NCGM3週研修 x4期（医師or補助業務従事者2-3名/期）

・気管支鏡手技の座学および見学、ハンズオン（八王子）など
・気管支鏡のためのCT読影、解剖の基礎確認

5月-2月　技術補助、現地研修

・機器購入済みの医療機関で導入・安定実施への補助
・全国からEBUSや気管支鏡導入のための講演・指導依頼に応じる。